

【中学生の部：厚生労働大臣賞】

「私の両親」

宮城県・松島町立松島中学校

3年 内海 萌音 さん

みなさんは、障がい者をどのように思っていますか。もしあなたの親が目が見えなかったり、耳が聞こえなかったら。あなたならどう考えるでしょうか。

私の両親は耳が聞こえない、いわゆる聴覚障がい者です。聴覚障がい者という話すことも困難な人もいて、ほとんどの人が手話を使います。しかし私の家族は手話はあまり使わず、両親の口の動きや音、ジェスチャーなどを使って話しています。時には伝わらないこともあります。それでケンカになったり、不機嫌になったりしました。「どうして自分の親は。」と考えたこともありました。しかしそれは両親が一番考えたり、悩んだりしたことだと思いました。音のない世界とはどんなものなのかと何度も思いました。みんなが当たり前に使っている耳が使えない、だから私は障がい者をみんなが当たり前に行っていることができない人だと決めつけていました。でもそれは違っていました。確かに障がい者はみんなと全く同じことができる訳ではありません。しかし普通の人とそんなに違うかというところまで違わないと私は思います。私の両親は普通の人と同じように家事や仕事などの生活をしています。しかし今現在のように普通の人と同じ生活ができるまで大変だったと聞きました。私はそこまで違わないと思っていたけど、今現在のように生活できているのは両親の努力があつてこそだということを知りました。

ある日、私と母で買い物に行った時のことです。母と一人の女の人がぶつかってしまい、その女の人が母を睨み、舌打ちをして行きました。私の母は目も悪く、人とぶつかってしまうことはよくありました。相手の女の人も私の母が聴覚障がい者で目も悪くて、などということは知らないと思います。しかしその舌打ちが聞こえた私にとってはすごく不愉快な気持ちになりました。もし、母が舌打ちが聞こえていたら、すごくショックだと思うし、これは聞こえていなかったからこそ私だけが嫌だなど不愉快な気持ちになっただけであつたので良かったと私は思いました。このことがあつてから私は自分の両親について前よりもっと深く考えるようになり、これからどうやって関わっていったらいいのか、どうやって生活していくべきなのかを考えながら暮らしていきました。

私は、自分の両親が障がい者であっても、家族が周りとは違っていても、自分達には自分達の家族のあり方、幸せがあると思っています。その幸せをずつ

と続けるには、やはり両親と向き合っていかなければならないと思うので兄弟姉妹で話したりもしていきながら過ごしたいと思います。

この世の中は、まだ障がい者に対する考えや接する態度などあまり良くないと思います。理解してくれる人もいればその反対に理解しない人もいます。私が外を歩いていて思ったのは、目が見えない視覚障がい者に対しては点字ブロックや歩く所に誘導用ブロックがあったりと視覚障がい者に対する心遣いや支援が障がい者とは関わりのない人達も分かるような所にあるということです。一方聴覚障がい者は耳が聞こえないので一目見て分かる障がいではありません。だから助けようと思ってても難しいと思います。聴覚障がい者への支援はその地区の自治体や支援団体などが行っていて、メディアなどに取り上げられない限りは表にでるのは難しいのではないかと思います。しかし、私は私の両親の経験などからもっと沢山の人に障がいについて考えてもらいたいし、障がいの大変さについて知ってほしいと思いました。もっともっと聴覚障がいだけでなく他にもある障がいに対しての理解を深めてもらい、障がい者でも安心して暮らせるような世の中になってほしいと私は思います。